

転出入 市内 転居  
人口動態

1. はじめに

人口減少社会において人口動態は各自治体にとって将来を展望する重要な動きである。人口の増減をみると、出生や死亡などの自然動態だけでなく、転出入などの社会動態も注目されている。自然動態で人口を増やすことは難しく、社会動態に期待されているが、国内の人口が都市部に偏る傾向にあることはすでに指摘されている。転入超過となっているのはごく限られた地域のみであり、人口がパイの奪い合い状態になっている。

本研究は社会動態でも市を越える「転出入」についてはすでに様々な見地から分析がなされているが、人の移動が同一市内でも起きていることに着目した。本研究の目的は、市を越える転出入と市内での転居の動向から、地域内のより細かな居住地選択の傾向を明らかにするものである。

Table-1.西宮市人口社会動態  
(2012年度～2019年度)

	合計(人)
転居	131,818
転出	167,940
転入	169,409
合計	469,167

2. 研究方法

本研究は西宮市を対象に、西宮市役所より転出入と転居のデータ提供を受け、2012年度から2019年度までの8年分データをもとにしている。

3. 西宮市人口動態概要

データの総数は Table-1 の通りである。転出入をみると1,469 人の転入超過となっている。調査対象期間中に約 17 万人が転出入し、約 13 万人が市内で移動している。

年度別に動向をみると、Table-2 のようにおおよそ 2 万人が転出入しており、1.7 万人が市内移住している。年度

Table-2. 年度別動態

異動年度	合計 ID	転居	転出	転入
2012	46,374	13,270	16,050	17,054
2013	63,360	18,300	22,256	22,804
2014	61,335	17,589	21,658	22,088
2015	61,134	17,595	21,297	22,242
2016	59,493	16,849	21,409	21,235
2017	60,354	16,645	22,210	21,499
2018	59,267	15,923	21,751	21,593
2019	57,850	15,647	21,309	20,894
合計	469,167	131,818	167,940	169,409

別の移動数は 2012 年度が最も少なく、2013 年度が最も多い。転出入と転居の動態傾向は同じだが、転居の方が 2013 年度以降の減少率が高い。

異動年齢別では Table-3 のようになった。もっとも移動しているのは 22～29 歳までで合計が 112,599 人となった。この年代は大学卒業後であり、転出入に大きな動きがみられる。次いで 30 歳代の 110,531 人である。30 歳代も転出入が多くなっている。転居(市内移動)が多いのは小学生と 70 歳以上となった。

Table-3. 年齢別動態

異動時年齢	合計 ID	転居	転出	転入
5歳以下	44,554	14,923	15,022	14,609
小学生 (6歳から11歳)	23,465	8,896	7,178	7,391
中学生 (12歳～14歳)	8,233	3,825	2,251	2,157
高校生 (15歳～17歳)	6,902	3,370	1,846	1,686
18歳～21歳	26,836	5,095	9,349	12,392
22歳～25歳	54,700	7,687	23,863	23,150
26歳～29歳	57,899	11,222	22,834	23,843
30歳代	110,531	29,219	40,189	41,123
40歳代	62,889	19,675	21,919	21,295
50歳代	30,119	9,869	10,495	9,755
60歳代	19,381	7,840	6,079	5,462
70歳代	12,224	5,572	3,472	3,180
80歳代	9,075	3,658	2,736	2,681
90歳以上	2,359	967	707	685
合計	469,167	131,818	167,940	169,409

異動動区分別では Table-4 のように転出入、転居とも世帯全員の移動が最も多い。しかし、転出では 26.0%が「一部」の移動となっており、これは子どもの独立などによるものと考えられる。転居では 24.6%が市内で別世帯の一部となる「全部一部」の移動となっており、これは単身者が結婚などの後も同一市内で住んでいることや、親との同居などを示していると考えられる。

※異動区分

全部：世帯全員が市外より転入または市外へ転出。

一部：世帯の一部が市外より転入または市外へ転出。

全部全部：世帯全員が市内で転居

全部一部：世帯全員が市内で転居し別世帯の一部になる

一部一部：世帯の一部が市内で転居し別世帯の一部になる

Table-4.異動区分別動態

異動区分	転居	転出	転入
全部	---	124,269 (74.0%)	143,541 (84.7%)
一部	---	43,671 (26.0%)	25,868 (15.3%)
全部全部	94,246 (71.6%)	---	---
全部一部	32,556 (24.%)	---	---
一部一部	5,016 (3.8%)	---	---
合計	131,818	167,940	169,409

Table-5.  
小学校区別動態

市外増+市内増：〇〇	市外減+市内増：×〇
市外増+市内減：〇×	市外減+市内減：××

小学校区	転出	転入	転居(出)	転居(入)	転入-転出	転居差	区内増減	増減パターン
安井小	6393	7259	4899	4586	866	-313	553	〇×
瓦木小	4094	4203	2961	2539	109	-422	-313	〇×
瓦林小	3709	3517	2485	2503	-192	18	-174	×〇
苦楽園小	2866	2626	1984	2141	-240	157	-83	×〇
広田小	6125	6329	4639	4259	204	-380	-176	〇×
甲子園浜小	2727	2433	3450	4040	-294	590	296	×〇
甲東小	6415	6434	4584	4231	19	-353	-334	〇×
甲陽園小	4334	4385	3500	4475	51	975	1026	〇〇
香櫨園小	5246	5501	3743	3862	255	119	374	〇〇
高須小	2618	2351	3359	2975	-267	-384	-651	××
高須西小	3701	3263	5044	4388	-438	-656	-1094	××
高木小	5145	5726	3415	2995	581	-420	161	〇×
高木北小	2983	3320	1980	2086	337	106	443	〇〇
今津小	4533	4223	3661	3644	-310	-17	-327	××
山口小	3594	3244	1610	1634	-350	24	-326	×〇
夙川小	6755	7464	3970	3761	709	-209	500	〇×
春風小	4285	4283	4826	5052	-2	226	224	×〇
小松小	3434	3405	3233	3008	-29	-225	-254	××
上ヶ原小	4866	5183	2570	3017	317	447	764	〇〇
上ヶ原南小	2282	2077	1889	2008	-205	119	-86	×〇
上甲子園小	4856	4871	3802	4143	15	341	356	〇〇
深津小	4920	5912	3361	4013	992	652	1644	〇〇
神原小	2867	3080	2275	2580	213	305	518	〇〇
生瀬小	2355	2089	793	935	-266	142	-124	×〇
西宮浜義務前	1697	1423	1734	1775	-274	41	-233	×〇
大社小	3257	3239	2922	2632	-18	-290	-308	××
段上小	2706	2342	1946	2124	-364	178	-186	×〇
段上西小	4572	4444	3100	3173	-128	73	-55	×〇
津門小	5160	5434	4807	4410	274	-397	-123	〇×
東山台小	2015	1701	854	1042	-314	188	-126	×〇
南甲子園小	4489	4439	4598	4723	-50	125	75	×〇
樋ノ口小	3913	3636	3486	3747	-277	261	-16	×〇
浜脇小	6047	6714	4927	5006	667	79	746	〇〇
平木小	5247	6175	3556	3152	928	-404	524	〇×
北夙川小	4582	4528	3843	3226	-54	-617	-671	××
北六甲台小	2661	2433	1235	1400	-228	165	-63	×〇
名塩小	2203	1779	748	787	-424	39	-385	×〇
鳴尾小	3580	3591	3062	2888	11	-174	-163	〇×
鳴尾東小	3934	3574	2976	2955	-360	-21	-381	××
鳴尾北小	7314	7201	6546	6367	-113	-179	-292	××
用海小	3460	3575	3445	3535	115	90	205	〇〇

小学校区別の動態について Table-5 に示す。小学校区別では転出入による増減と転居による増減をパターン別に、市外増+市内増：〇〇、市外増+市内減：〇×、市外減+市内増：×〇、市外減+市内減：××

と表している。市内北部地域の5校区はすべて転出超過となっているが、市内転居(入)は増加している。南部地域では東西をつなぐ鉄道沿線の校区では転入超過・転居(入)増加となり、それらから離れていくと転出増加・転居(出)増加となっている。

Table-5 に薄オレンジで示している校区は転出入では減少しているが転居により増加している小学校区である。薄グレイは転出入では増加だが転居により全体として減少している。このように、市を越える社会動態(転出入)

での増減と、市内転居の動向が異なる場合がある。

#### 4. まとめ

本研究では市を越える転出入と市内での転居の動向を比較することで、地域内のより細かな居住地選択の傾向をみた。

年度別の動態は転出入と転居の動態は同じような傾向にあった。

年代別では転出入に大きな動きがみられるのは20歳代で、次いで30歳代であった。転居も20歳代30歳代の移動が多くなったが、転出入と比較して多いのは小学生と70歳以上であった。

異動区別では転出入・転居とも世帯全員での異動であった。特に転入ではその傾向が強い。

小学校区別では転出入と市内転居で動向が異なる校区もあり、特に、市外へ転出超過となっているが、市内転居(入)が増えている校区などは、さらなる調査が必要だと考えられる。